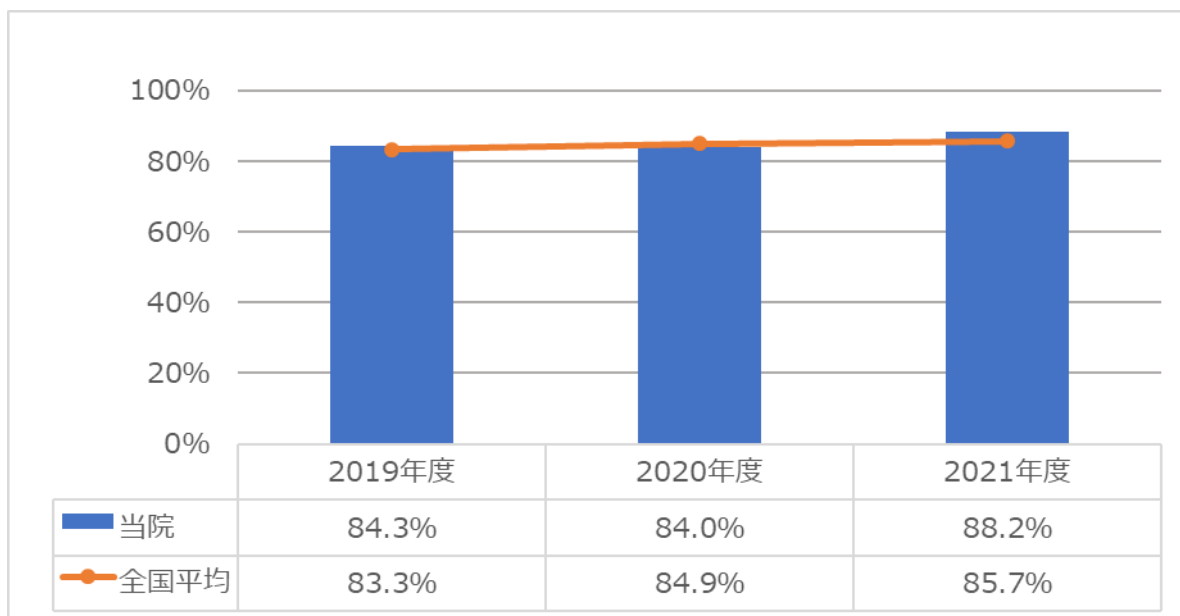


指標 2 脳梗塞の診断で入院し、入院後早期にリハビリ治療を受けた症例の割合



<定義>

分子	：	分母のうち、入院後早期（3日以内）にリハビリテーション治療を受けた症例
分母	：	18歳以上の脳梗塞の診断で入院した症例
期間	：	2019年度～2021年度（1年毎に集計）
対象	：	上記期間の退院患者
値の解釈	：	手術症例、非手術症例等が混在しており、結果は総合的に解釈が必要

<解説>

当院の脳梗塞診療は、手術を中心とした高度急性期・急性期の治療を主に実施しています。当院の医療資源を有効に活用するためには、手術後になるべく早くリハビリテーションを開始し、自宅（かかりつけ医）への早期退院、回復期リハビリテーション施設への早期転院を目指す必要があります。

※ 本データは厚生労働省提出用のDPCデータを基に作成されています。また、全国平均の値については、当院が参加している「医療の質と経済性に関する実態調査【京都大学大学院QIP事業】」における「医療の質の指標」の計測結果（事業に参加する全国の病院の平均値）を用いています。

【参考 URL】

<http://www.kch.kagoshima.jp/about/qip.html>（当院のQIP参加について）

<http://med-econ.umin.ac.jp/QIP/acts.html>（QIPにおける計測結果）